

未曾有の 大災害に備え **今** できることは

「熊本地震」や「令和2年7月豪雨」などの大規模災害が相次ぐ近年。いつ、その牙が私たちに向けられるか、誰にもわかりません。

本町には一級河川の緑川やそこに流れ込む数々の支流が存在します。川と共にある暮らしは、自然災害を受け入れる覚悟が必要です。いざという時にいのちを守るための備えについて地域や家庭で改めて考えてみましょう。



平成28年6月豪雨で犬井手川から道路にあふれた濁流（緑町区）



町くらし安全推進室
佐藤 大治 係長

雨の季節の前に

まもなく梅雨や台風といった雨の季節を迎えます。球磨川流域を中心に大きな被害が発生した「令和2年7月豪雨」のような人命が脅かされる災害の発生も高まります。

本町でも、平成28年6月20日深夜から翌朝にかけて降り続いた雨では、1時間当たりの総雨量が150ミミを超える記録的な大雨を経験しています。町内各地に河川の氾濫による家屋の浸水や土砂災害など多くの被害をもたらしました。

災害は、いつどこで、どのような形で発生するのか予測がつきません。日ごろから地域防災に対する意識を高め、しっかりと準備をしておくことが大切な命を守ることにつながります。

避難する勇気を持つ

人間には、自身にとって都合の悪

い情報を無視したり、非常時でも根拠なく大丈夫だと判断し平常時と同じ行動を選択しようとしたりする「正常性バイアス」という心理が働くといわれています。毎年のように観測記録を更新するような大雨が降る気候変動の時代、これまでの経験はかえって危険を招く場合もあります。土砂崩れや河川の氾濫が起こってしまったら人の力はありません。です。「大丈夫」は絶対にありません。だからこそ、避難が最大の防災であり、自ら行動することが求められます。早めの避難は、決して臆病なことではありません。あなたの大切な人たちを悲しませないためにも行動する勇気を持ちましょう。

自分を守ることで他人を守る

過去の大災害では、逃げ遅れた住民を救助に向かった消防団員が命を落としてしまうといった事例も報告されています。救助を求めることは、助けに向かう人命を危険にさらすこと。あなたが早めに避難し自分の命を守ることで、他人も守られるということを心に留めておきましょう。

▼お問い合わせ先

町くらし安全推進室

☎096・234・1167

災害に備えて

水防演習

5月14日（日）宇土市馬之瀬町地内で令和5年度緑川水防演習が開催されました。

同演習は緑川流域の6市町村などが参加する緑川水防演習協議会（元松茂樹会長）が出水時に備え、水防体制の整備強化および水防に対する地域住民の協力と理解を求めることを目的に実施。町消防団（田上慎太郎団長）の幹部18人は、緑川を背に木の杭や鉄線を使い堤防の亀裂や崩壊の拡大を防ぐ「緊ぎ縫い工法」を実施しました。



防災教室

4月14日（金）白旗小学校で地震および洪水を想定した防災訓練が実施されました。

同訓練は白旗小学校（原田加代子校長）が児童たちの迅速かつ安全に避難できる行動力の養成を目的に実施。児童たちは先生の指示に従い、迅速に避難を行いました。

また、避難訓練後に防災士の溜瀝清裕さん（津志田区）が白旗小学校における災害のリスクとその対処法について話しました。



防災士になろう

防災士とは、日本防災士機構が認証する民間資格です。自助・共助・協働を原則とし、防災についての十分な意識や知識・技能を持っています。取得には県主催の「火の国ぼっさい塾」などの受講、認定試験の受験が必要です。町でも令和4年度に「こうさ防災塾」を開催し、多くの人が防災士の資格を取得しました。

助けられる側から助ける側へ

大きな災害を経験した本町でもまだまだすべての地域で「自助」、「共助」の考え方が浸透しているとは言い難いです。「何かあったら国や行政が助けてくれるだろう」と考えている人も少なくありません。しかし、公助によって救助された件数よりも、自助・共助によって助かった件数の方が圧倒的に多いことがわかっています。防災士や地域に住む人が長く効果的な活動が続けることが大きな防災力となります。自分で勉強したことを家族や友人に伝え、地域で共有する。「自助」から「共助」へつなげることが大切です。これからも、防災をより身近に感じる機会を増やしたいですね。



西寒野区自主防災会事務局長
田浦 末廣 さん

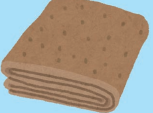


▲「こうさ防災塾」を受講する皆さん

災害に備えるチェックリスト

「非常持出品」は、避難するときにまず持ち出すべきものたちです。リュックに入れて、寝室や玄関などの持ち出しやすい場所に置いておきましょう。大きさや重さを運ぶ人に合わせることも重要です。

家庭によって必要なものは変わります。あなたに必要な備えを確認しましょう。非常持出品については「甲佐町総合防災マップ」に詳しく記されていますのでご確認ください。

すぐに持ち出すもの（「非常持出品の一例」）				感染症への備え
 □ 携帯ラジオ	 □ 懐中電灯	 □ 歩きやすい運動靴	 □ 予備電池 / 携帯充電器	 □ マスク
 □ 飲料水	 乾パン、缶詰め、レトルト食品、チョコレートなど □ 非常食	 □ ライター・マッチ	 ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など □ 救急セット	 □ 手指消毒液
 通帳、印鑑、現金、診察券、マイナンバーカードなど □ 貴重品	 □ ウエットティッシュ/タオル	 □ 毛布 / 寝袋	 □ 持病の薬・お薬手帳	 □ せっけん
 □ 衣類・下着	 □ 歯ブラシなど	 □ 防災マップ	 □ スリッパ	 □ 体温計

「もしも」の備えで

「いつも」を守る

01 防災マップで身の回りの危険個所を把握

町では、浸水想定区域や土砂災害の危険個所を示した「甲佐町総合防災マップ」を作成しています。

防災マップを見ることで、自分が住んでいる地域にどんな災害リスクがあるのかを理解しておきましょう。また、自分の家や家族の状況などを踏まえて、どんな避難がベストなのか検討してください。住宅の耐震性や食料の備蓄など、自宅の安全が確認できる場合は「在宅避難」も選択肢の1つです。

ためらわずに冷静な判断ができるよう、今のうちに避難を始めるタイミングや避難所までの経路について家族や友人と話し合ってみましょう。



02 災害に備えてマイタイムラインを作りましょう

マイタイムラインは大雨や台風などの自然災害から私たち自身を守るための防災行動計画です。

あなたと家族の避難行動をあらかじめまとめておくことで、いざという時あわてずに避難できます。次の項目を確認し、災害時に迅速な対応ができるようにしましょう。

- ①自宅周辺の災害リスクを防災マップで確認
 - ②災害種別に応じて利用できる避難先の確認
 - ③家族の連絡先や行動を一覧表にまとめる
 - ④避難行動に必要な準備を確認
- ※「くまもとマイタイムライン」を皆さんの防災対策に、ぜひご活用ください。



甲佐町の防災情報がケータイに届く！ 「こうさ情報たしかめーる」登録受付中！

町では、防災行政無線の戸別受信機に加え、新たな情報伝達手段としてメールアプリ「こうさ情報たしかめーる」の運用を行っています。

お持ちのスマートフォンなどに町から災害情報などをお届けするもので、防災行政無線が聞こえない外出先でも避難所の開設情報などが受け取れます。いざという時に備えて登録しておきましょう。



■登録はかんたんです！

※スマートフォン

- ① 「あんしんメール」アプリ（無料）をインストール
- ② アプリを起動して「新規登録」→画面下部の「お知らせ」→「各市町村の防災防犯メールご紹介」→「熊本県甲佐町（ご登録はこちら）」をタップ
- ③ 登録用空メールアドレス（kosamail@gw.ansin-anzen.jp）が入力されるので「グループに登録」を選択
- ④ 必要事項にチェックして「登録」すれば完了！

※ スマートフォン以外の方は

- ① 登録用空メールアドレス（kosamail@gw.ansin-anzen.jp）に空メールを送信後、届いたメールに記載された URL を選択し「本登録画面へ」を選択
- ② 必要事項を入力して「登録」すれば完了です！

Android 版



iPhone 版



<推奨 OS>

- ① Android5 以降（2014 年に公開）
 - ② iOS9 以降（2015 年に公開）
- ※上記以前のバージョンは非対応

◀アプリの取得はこちらから！

